



## 梅の花から桃の花へ 桃の花から桜の花へ！

部長 松本安博

梅の花から桃の花へ、桃の花から桜の花へと季節は移り変わろうとしています。まだまだ寒い日が続いています。ご家庭でも健康管理には十分ご留意ください。

さて、第58回卒業証書授与式の日まで残すところあとわずかとなりました。今年は、86名が3月14日（金）に初等部を巣立ちます。

先週から卒業式の練習も始まり、卒業座禅や卒業記念講演など、卒業関係の行事を迎えるごとに、6年生との思い出がよみがえってきます。私が廊下や階段で「元気でやってますか。」と声をかけると、いつも明るい返事を返してくれます。そして、今も1年生の教室を訪ね、遊び時間をともにする下級生思いの6年生がいます。また、松本講堂の耐震補強工事のため、場所を鎌倉芸術館に移して開催された「音楽会」では、下級生から「さすがは6年生。6年生にはかなわない。」と、評されるすばらしい歌と演奏を披露してくれました。委員会活動や縦割り活動、クラブ活動でも最高学年の自覚をもって、創造的に活躍する6年生でした。

私は、そんな6年生に初等部生活の集大成である卒業式の日、期待していることがあります。

1つは、学級担任の呼名に爽やかな返事をリニューアルされた松本講堂いっばいに響き渡らせてくれることです。雨降る日も、風吹く日も志をもって通い、友と過ごした日々を思い起こしながら、そして、共に卒業することの喜びを声にしてほしいと思います。

もう1つは、6年生の愛称「すばる」の気持ちを込めた歌声を聞かせてくれることです。卒業式では、国歌や校歌、「仰げば尊し」、「旅立ち」など、たくさんの式歌を歌います。私は、これらの歌が一人ひとりの夢や希望、思い出が渦を巻き、未来に向けた美しいハー

モニーになることを期待しています。その6年生の凜とした姿は、きっと在校生に「豊かな心」と「確かな学力」、「健やかな身体」を身に付けた品位ある初等部生像を残していつてくれるものと思います。

人は、離れて初めて分かることがあります。後になって分かってくることもあります。6年生も初等部から離れて、後になって初めて分かることがたくさんあると思います。私は、それが肯定的なものであっても、そうでないものであっても、個々の成長にとってとても大切なものであると思います。

私は、そんな思いをもちながら、先週も6年生に「人には、だれにも必ずや良いところがあります。良い心があります。そのことを決して見失ったり、見逃したりすることのないようにしましょう。そして、そのためには、これからも自分を見つめる力や態度を大切にしていきなさい。」と、伝えました。

私は、6年生の一人ひとりが初等部での学びを再生させ、かけがえのない自分づくりをこれからも続けていくことを願ってやみません。

「初等部生は、私たち職員の鏡」です。私たち職員も常に建学の精神のもと、「豊かな心と確かな指導力、健やかな身体を身に付けた品位ある職員」であることを目指し、自己研鑽・自己修養に努めて参りたいと思います。

最後になりましたが、初等部評価「授業アンケート」のご協力、ありがとうございます。

